

事業活動報告

事業所名 デイセンターぼればれ

<p>1.2018年度 事業所方針</p> <p>安心感と見通しのある毎日を、人とのかかわりのなかで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市民として生きている実感を地域や社会、人とのつながりのなかでつくり、ひとりひとりの豊かな人生を援助する実践を追求します 2 ありのままの姿によりそい、安心して自分を出せる場所、ほっとできる居場所づくりをすすめます 3 学びを意識し、共に学び語りあえる職員集団をめざします
<p>2.利用者・職員状況について</p> <p>○利用者：定員…1日20名 契約人数…43名 (男性18名 女性25名) ※他事業所との併用利用者 30名</p> <p>○職員：10名 正規職員…支援員2名、センター長1名、主任1名 非正規職員…支援員5名(常勤3名 非常勤2名) 看護師1名(週2日入浴時)</p>
<p>3.2018年度の実践内容について</p> <p><u>メンバー状況</u></p> <p>・4月から支援学校卒業生1名、年度途中の7月に1名(週2日)12月に1名(土曜日月1日)の新しいメンバーを迎えました。これ以外にも新たな利用希望はもちろん、利用日を増やしたいという要望もあり、その都度できる限り希望に添えるよう検討してきましたが、すべての希望に添うことが難しいのが現状です。メンバーの状況としては、体調や食事面での配慮が必要な方が増えてきたことがあり、高齢の方だけでなく、どのメンバーにも医療面での配慮、体調面での職員の気づきにより一層重要になってきています。</p> <p><u>日中活動(さんぽ たいそう おんがく レクリエーション等)の実践</u></p> <p>・「わかる」「みえる」「実感できる」場面づくり、雰囲気づくりを大切にしてきました。年度前半は、きょうされん全国大会に向けて、いろんな場面でそのことを意識したとりくみを進め、「全国のなかまたちと楽しく踊ろう」「分科会でこんなことを聞いてこよう」など、大会に向かう気持ちづくりをしてきました。</p> <p>・高齢になり、なかなか身体が動きにくくなってきたメンバーや、気持ちの落ち着かない壮年期のメンバー、若いメンバーなどが混在するなかでの活動づくりは難しさもありますが、これまでも大切にしてきた、ひとりひとりの「したいこと」「好きなこと」を丁寧に探り、活動内容の工夫や安心して参加できる環境を整えていきたいと思えます。</p> <p><u>元気に安心して通い続けるために</u></p> <p>・職員の気付きの重要さが増してきています。変化に気付くためには「いつもの様子」を知ってわかっていることが大切です。気になることや気付いたことについては、家族、医療機関、相談機関や看護師との連携し、素早い対応を心がけました。そんななかでもメンバーの怪我があり、</p>

「生き生きと安心して通い続けるための支援」についてはより一層の自覚と責任を持ち、実践に努めなければなりません。

職員集団

・ 1日の業務を「見える化」し、分担して行うとりくみを継続し、職員がどの役割も担うことができるようになってきました。これを更に発展させ、職員集団としてメンバーの支援に向かうことや、互いにコミュニケーションをとり、連携することが日々の様々な場面でできるようにしていきたいと思います。

4 2019年度への課題について

- ・ 壮年期～高齢期の方が増えることや、丹波支援学校卒業生などの比較的若い方のニーズもあるなかで、改めて今のばればれでできること、できないことを整理する。できないことについてはどんな工夫が必要か、どうすればできるかを検討し、「はたらく」ことではない日中活動の場を新たにつくることをビジョン作成のなかで具体化していく。
- ・ 虐待防止セルフチェックを活用し、日々の業務のふり返りや相互点検できる風通しのよい職場、職員集団づくり。